

# 第19回防災・環境シンポジウムの実施について

2025年12月15日（月），琉球大学島嶼防災研究センター主催の第19回防災・環境シンポジウムが以下内容で開催されました。

## 1. 開催概要

日 時	令和7年12月15日（月）13:30～16:45
場 所	琉球大学研究者交流施設・50周年記念館 多目的AB
形 式	対面・オンラインのハイブリッド形式
主 催	琉球大学 島嶼防災研究センター
共 催	（一社）沖縄県測量建設コンサルタント協会
後 援	株式会社琉球新報社、株式会社沖縄タイムス社、NHK 沖縄放送局、琉球放送 株式会社、琉球朝日放送株式会社、沖縄テレビ株式会社

## 2. プログラム

【開会】13:30 開会の辞（名嘉村盛和 琉球大学理事・副学長）

13:35 センター長挨拶（中村衛 島嶼防災研究センター長）

【基調講演】13:40～14:40

「九州沿岸で発生する高潮の特徴とそのメカニズム」

井手喜彦 先生（九州大学大学院工学研究院 助教）

【講演】15:00～16:30

①「AIを活用した防災・減災対策～精度と即応性の両立をめざして～」

宮田龍太 先生（琉球大学工学部）

②「沖縄の中高生の防災に対する意識と空間認知について」

濱田栄作 先生（琉球大学教育学部）

③「災害と犯罪～犯罪心理学の視点～」

田中寛二 先生（琉球大学人文社会学部）

【閉会】16:40 閉会の辞（砂川健治 沖縄県測量建設コンサルタント協会会長）

## 3. 発表内容概要

基調講演では、九州大学工学研究院の井手喜彦先生より九州沿岸における高潮災害の歴史と発生メカニズム（吹き寄せ・吸い上げ効果）について解説があり、有明海での高潮浸水シミュレーションや2020年台風9号による九州北岸での特殊な高潮発生事例、気候変動による将来変化予測が報告された。

琉球大学工学部の宮田龍太先生からは、AI・深層学習技術の概要とともに、気象研究所との共同研究による竜巻渦探知AIの開発事例が紹介され、CNN系モデルとViT系モデルの精度・計算速度の比較検証結果が報告された。

琉球大学教育学部の濱田栄作先生からは、沖縄県内の中高生1,255名を対象とした防災意識調査の結果が報告され、地域の避難場所認知には家庭での話し合いや防災への興味関心が関連すること、また垂直避難に必要な空間認知を育む防災教育プログラムの提案がなされた。

琉球大学人文社会学部の田中寛二先生からは、犯罪心理学の観点から災害と犯罪の関係について解説があり、災害時には全体的な犯罪増加は見られないものの、DV・児童虐待等の家庭内犯罪が増加する傾向や、犯罪不安が被災者に与える心理的影響について報告があった。

## 4. 参加者アンケート結果（回答数：28件）

全体満足度	大変満足 10.7%、満足 57.1%、普通 32.1%（満足以上：67.8%）
日程・時間配分	適切 96.4%、やや長い 3.6%
今後の参加意向	ぜひ参加したい 46.4%、機会があれば参加したい 53.6%（計100%）

## 【主な意見・感想】

- ・理系のみならず、教育、人文社会を含めた多角的な発表が有意義であった
- ・高潮発生時の台風接近との時間差（√型）を初めて知り、大変参考になった
- ・Web 参加が可能で離島からも参加しやすく、今後もハイブリッド開催を希望する
- ・質疑応答が活発で新しい視点を得ることができた





沖縄県測量建設コンサルタント協会砂川会長のご挨拶



懇親会の様子

以上